（案）　　（様式第３号）

令和５年度　地域センター事業計画書

（令和５年４月１日から令和６年３月31日まで）

信州大学センター

1　事業概要

令和５年度は独立行政法人教職員支援機構の地域センターとして委託された３カ年事業の最終年度となるため、これまで通り長野県などの中部地方をはじめとする地域のニーズに基づいた研修事業を継続実施するとともに、それらの事業の効果を検証するためのより適切な方法を同時に検討しつつ、研修事業の成果を見える化する研究にも取り組む。

当センターの研修事業は、長野県教育委員会の学びの改革支援課や文化財・生涯学習課との共催事業３本と、長野県総合教育センターとの連携講座３本に加え、信州大学教職大学院の教育力を活かした信州大学センター独自の事業に大別されるが、令和５年度は信州大学センター独自の事業をさらに充実させていく。さらに、信州大学教職大学院の南信州サテライトキャンパスをフル活用して、学校現場・教員主体の学びの場づくりにも一層注力し、個々のニーズに寄り添った教員研修を施行実践し、その成果を発信していく。

2　令和５年度事業計画

（１）実施内容、実施方法、期待される成果、評価方法等

No	事業名・開催日程	実施内容・方法	◎期待される成果、★評価方法等
1	**中核教員養成研修** 4月より1年間を通した研修 （長野県教育委員会・学びの改革支援課との共催）	長野県内15ブロックごとに推薦された計30名の中堅教員を対象に1年をかけて継続研修を行う。 ①スタートアップ：理念の共有／②総合教育センターの希望研修講座受講／③県内外の特色ある学校の視察研修／④講演会（カリキュラムマネジメント）の受講／⑤学校づくり実践研修／⑥中間報告会／⑦学びの改革フォーラム長野（1月）での成果発表／⑧各所属地区で研究報告	◎広い視野から教育実践を捉え直し、中核教員として校内教職員をまとめる。 ★年度末の成果発表会での報告内容と自己評価を融合させながら総合的に評価する。
2	**教師の教育観と授業** 6月5日（月） （長野県総合教育センターとの連携講座）	・講義1「信州の総合学習の理念と背景」 ・ 実践発表「子どもとともに更新し続ける教師」 ・講義2・演習「協働的同伴者としての教師のアプローチ」 ＊長野県内教員10年～20年経験者と教職大学院生の対面型での協働的な学びを教職大学院教員が指導する。	◎子どもの学びから授業を捉え直す授業観に接し授業の改善を意欲する。★googleフォームによるアンケート集計を工夫。
3	**未来の学校と期待される教師** 8月1日（火） （長野県総合教育センターとの連携講座）	・講義「教員のwell-beingを高める学校づくり」 ・講義・演習「チーム学級と同僚性・協働体制づくり」 ＊長野県内教員10年～20年経験者と教職大学院生の対面型での協働的な学びを教職大学院教員が指導する。	◎教員のwell-beingを高める経営を理解する。 ★レポート内容とgoogle フォームによるアンケートを総合的に評価する。
4	**へき地・小規模校の教育実践** 8月8日（火） （長野県総合教育センターとの連携講座）	・講義「少人数の条件を生かす教育実践」 ・実践報告「自律的な学びを目指す教育実践」 ・演習「少人数だからこその授業を創る」 ＊長野県内教員10年～20年経験者と教職大学院生の対面型での協働的な学びを教職大学院教員が指導する。	◎自律的な学びを指導する考え方を理解する。 ★受講者の自己評価とgoogle formによるアンケート集計を工夫。
5	**教室の中での異文化理解** 8月9日（水）9:00-12:00 （教職大学院との単位連携）	・講義・演習「外国籍児童教育の視点から」 ・講義・演習「英語教育の視点から」 ＊長野県内教員と教職大学院生の対面型での協働的な学びを教職大学院教員が指導する。	◎多様性の尊重を身近なところから捉え直す。 ★google formによるアンケート集計を工夫。
6	**マイスター教員研修** 8月9日（水）13:00-16:00 （長野県教育委員会・学びの改革支援課との共催）	・「教職人生リフレクション」 ・「県内教育実践者による講演」 ・「リ・クリエイション（再創造）」 ＊長野県内教員20年以上の経験者・再任用教員を対象とし、後進を育成するマインドを高める。	◎後進を育成する意識を高めることができる。 ★受講者の自己評価とgoogle formによるアンケート集計を工夫。
7	**教育映画会『夢見る小学校』** **8月10日（木）** **（第7回教職大学院公開セミナーを兼ねる）**	＊教職大学院生や教育学部生をはじめ、教育関係者や一般の方も無料で参加できる自主公開映画会。 ＊学生と一般の参加者が合流しての自由討論の場を設定する。	◎子どもファーストの教育を具体的に考えられる。 ★google formによるアンケート集計を工夫。
8	**学校フィールドワーク** **第1回（6月30日）木曽郡** **第2回（10月3日）木曽郡** **第3回（10月）南アルプス** **第4回（11月）平谷村**	第1回＆第2回　木曽町立福島小学校：個別最適な学びと協働的な学びを考える校内研修会に参加 第3回　南アルプス子どもの村小学校・中学校の参観 ＊きのくに子どもの村学園の教育理念と実践に学ぶ 第4回　平谷村立平谷小学校の取組を視察する。	◎教育の本質を問い直し柔軟に実践を発想する。 ★参加者の参観レポートとgoogle formによるアンケート集計を工夫。

9	**コミュニティ・スクール地域コーディネーター養成講座** **第1回（5月）／第2回（8月）** **（文化財・生涯学習課と信州大学センターの共催）**	第1回　上田市立北小学校、上田市中央公民館（大会議室）…地域講師によるクラブ活動参観／上田市地域づくり連続講座etc 第2回　美麻小中学校およびコミュニティスクール（CS）についての講義／総合学習美麻市民科の参観etc	◎CSコーディネーターの役割を理解できる。 ★google formによるアンケート集計を工夫。
10	**公開フォーラム** 2月24日（土）＊未確定 （県や市の教育委員会・総合教育センター・信濃教育会等の後援）	『これからの学校に求められる管理職とは』（仮題） 県内3名の有識者による鼎談	◎これからの時代に求めたい管理職像を多様な観点から考え合える。 ★google formによるアンケート集計を工夫。
11	**校内研修コンサルティング** （サテライトキャンパスの開設時間内：4月～3月）	＊南信州サテライトキャンパスにおいて、校内研修や地域の自主的な勉強会の運営等に関して、課題解決の手助けや最新の情報提供などを行う窓口を運営する。教職大学院の教員がコンサルティングを担当する。可能な範囲で出張にも応じる。	◎学校現場の課題にリアルに迫り、ユーザーをサポートすることができる。 ★google formによるアンケート集計を工夫。

（２）教育委員会等との連携方策

上記事業計画のうち長野県教育委員会との共催事業が３件（１・６・９）、長野県総合教育センターとの連携講座が３件（２・３・４）、長野県教育委員会等の後援事業が３件（５・７・10）となっており、～５までの講座はすべて長野県教育委員会または長野県総合教育センターとの共催もしくは連携講座である。これらは企画立案の段階と成果の検証の段階でさらに協働して取り組むことを合意している。また、教員育成指標に照らし合わせて教育委員会が企画・運営する教員の悉皆研修や希望研修全体の中での信州大学センターの位置づけ、棲み分けも協議しつつ内容を精選している。毎年度の関係する研修事業については、お互いに報告書を交換して成果と課題を共有することにも務めている。

（３）事業成果の活用方法

※他地域センターへの周知や、その方法等を含めて記載してください。

他地域センターへの情報提供は、基本的に信州大学センターのホームページでの情報公開によって行っている。URL→https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/nits-center/
その他、信州大学センター関係者のFacebook等のSNSメディアを活用した事前案内等も行う。
さらに、令和５年度中に完成予定の研修教材ＤＶＤ『コミュニティ・スクール地域コーディネーターの役割』（仮題）をNITS本部及び各地域センターへ無料提供する予定である。

（４）教職員支援機構における調査研究事業との連携方策

教職員支援機構における調査研究事業について以下のような連携方策を予定している。
<u>１）ポストコロナ時代の新たな研修スタイルの確立に関する調査研究プロジェクト</u>
オンライン研修と対面での演習をどのように組み合わせることがより研修目的を達成する上で有効なのかを実践を通してデータをとり続ける。ある程度の結論が得られた段階でそれを公開する。
<u>２）ニーズベースの研修支援モデルの構築と実装化に関する調査研究プロジェクト</u>
「個別最適な学びを掲げる令和の日本型教育に実効性を与える教師の継続的な学びを支える教員の資質向上のシステム構築に貢献するために、①研修ニーズの把握、②研修と学びの実態の把握、③研修の即時的・波及的効果測定に向けたシステムの検討と試行についての実証的知見と研究的知見を構築する。」とされている本プロジェクトの主旨に賛同し、これに併走するかたちで、信州大学センター独自に研修講座の受講者や来談者からの声を整理し、ニーズベースの研修支援モデルの構築に努力したい。
＊また、これらの他にも教職員支援機構が公開しているプロジェクト研究の報告書を検討しつつ、信州大学センターの取組に生かしていくような学習会も設けたい。

3　令和５年度予算案　　5,000,000

費　目	金額（千円）	積算内訳	備考
人件費	2,497,920	＜人件費小計＞	
	169,920	1770円×2時間×4日×12ヶ月	研究員
	1,728,000	3,000円×4時間×12日×12ヶ月	サテライトキャンパス人件費
	480,000	1,000円×のべ480時間	アルバイト
	120,000	20,000円×のべ6名	信州大学教員担当分
謝金	270,000	＜謝金小計＞	
	150,000	7,500円×2時間×10名	講師謝金
	120,000	30,000円×4名	講演謝金
旅費	973,000	＜旅費小計＞	
	80,000	20,000円×4人	講師旅費
	723,000	241,000円×3件	貸切バス借り上げ
	170,000	8,500円×のべ20件分	サテライトキャンパス出張
通信運搬費	80,100	＜通信運搬費小計＞	
	20,100	20,100円×１年間	ZOOM契約ライセンス
	60,000	5,000円×12ヶ月	サテライトキャンパス通信費
印刷製本費	280,000	＜印刷製本費小計＞	
	280,000	1,000部パンフレット印刷	パンフレット製本
備品費	360,000	＜消耗品費小計＞	
	360,000	180,000円×2セット	VRグラス
消耗品費	225,980	＜消耗品費小計＞	
	100,000	50,000円×2セット	ARグラス
	33,000	11,000円×3セット	ヘッドセット
	28,980	9,660円×3台	Webカメラ
	20,000	2,500円×8箱	コピー用紙
	44,000	11,000円×4色	プリンタトナー
委託費	298,000	＜委託費小計＞	
	88,000	88,000円×1件	ホームページ更新・調整等
	210,000	21000×10件	チラシ製作
使用・賃貸借費	15,000	＜使用・貸借費小計＞	
	15,000	15,000円×1回	会場借用費
その他	0		

※本計画書作成に当たっては、適宜、行の追加・削除等を行ってください。